

学校番号	8	学 校 名	静岡県立沼津特別支援学校	記 載 者	村田 健二
------	---	-------	--------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	御意見
安 全	人権に配慮した指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 職員が、相手の人権を尊重した対応を日々心掛けている。 児童生徒自身や保護者が、児童生徒の人権が尊重されていると感じている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたち一人一人を大切にして接しているようすが良く分かった。 参観した時、教員が落ち着いて接していた。 保護者からの評価も高く一人ひとりを尊重した取組ができている。
		<ul style="list-style-type: none"> 校内が整理整頓されている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 整理整頓は、設備や道具、教材教具が教育活動に効果的に使いやすくなるということが重要。 以前より、整理整頓している。 限られた場所を有効に活用し、整理整頓された過ごしやすい環境であると感じる。
	命を守る、体制整備と実践力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 未然防止の観点から点検と対応が常に行われている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 今置かれている環境の中で、最善の配慮をしている。
		<ul style="list-style-type: none"> 職員と児童生徒は、発災、緊急時の対応を理解し、行動できる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 福祉避難所としての整備が急務。 訓練に慣れがこないよう留意して、継続していくことが大切。 防災に対する対応が進んでいると思う。 いろいろな想定で検討する必要があるのでは、なかなか「これで十分」とはいかない。 様々な取組がされているが、連続したイメージを持ち、複合的に発生する災害に対応できるように、より訓練を重ねる必要がある。
専 門	教育的ニーズの的確な把握とそれに応える自立活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> 教員が、児童生徒の自立活動の目標と、今持っている力や得意なことを生かした達成方法を、保護者に丁寧に伝えている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、PTAとの関係性がしっかりされている。
	つながりのある支援と指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> その時期にその授業を行う意義について、職員が語り合い、保護者に伝えている。（お便りも含む）。 職員が、学んできたことをもとに次の学びを描き取り組んでいる。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 目的を持ち、学びの構成がされている

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	御意見
		<ul style="list-style-type: none"> ・授業で、一人一台端末が活用されている。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに応じてふさわしい指導方法や学び方があると思う。それに応えていけば十分ではないかと思う。 ・活用がすべて満足することは難しい。 ・端末を十分に使いこなすことは生徒の持っているスキルによって個々の対応が必要になり、難しい面もある。 ・時代の変化に対応しながら、他の学校の利活用状況も参考にできるとなお良いと感じる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が、遊びの指導、生活単元学習、作業学習を楽しみにし、願いを叶えようと夢中で取り組んでいる。 ・職員が、学んできたことをもとに次の学びを描き取り組んでいる。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・つながりある教育が実践されている。
連携	自立と輝きに向けた協働の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・職員と保護者が、学校運営協議会からの具体的な支援を理解している。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との協働に活かされている実態があることで充分と評価した。 ・今回の報告書からも活動が見える。 ・「いかすため」の具体的な検討はこれからですね。 ・様々な機会に学校運営協議会を紹介いただいている。より、学校活動に貢献できると良いと反省している。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議後今後の方針と役割分担が明確になり実践されている。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者相互の連携を意識した教育が進められていることは大切なこと。継続し、保護者とのコミュニケーションも大切にしてほしい。 ・会議での価値観の相違、解釈の相違によってなかなか「これでいこう」というのは難しい。それでも本人の「最善の利益」を中心に物事を考えていきたい。
	つながりの精選と地域への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の様々な交流や活動が、インクルーシブの推進につながっていることを、職員が説明できる。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・交流は将来への種まきであると思う。目の前の目に見える成果も大切だが、将来子供たちが生きていく社会を良いものにしていくために有意義な取組であると思う。 ・地域へのつながりが少しずつ広がっている。 ・閉鎖的だった学校が地域を意識し、いろいろなことを考えていることは、とても素晴らしい。さらなる交流やつながりを模索できると良い。 ・より地域に目が向くようになっており、今後も継続したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・交流籍校交流の活動に、打合せで伝えた児童生徒の「得意な学び方」が生かされている。 		B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような手段で、キャッチしてもらえるのか？ 拾う側の意識にもある。 ・今後のPR活動を期待する。 	

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	御意見
		<ul style="list-style-type: none"> 地域貢献や地域資源を活用した学習に、児童生徒が意欲的に取り組んでいる。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 予想以上に地域との連携を実践している。 子供たちとのふれあいが、地域の中に福祉の心を広めていると思う。十分な地域への貢献であると思う。 お便りやホームページは、しっかり見てほしい。 学校周辺の地域の方々には理解が進んでいると思われるので、今後居住地域へのアプローチが進む事を期待する。
チーム	やりがいがある職場環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が研修で学んだ内容をチーム力の維持向上に役立てている。 事務室への報告連絡相談が迅速に行われている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 自分が取り組んでいる特別支援教育が楽しいと思える学校であってほしい。 情報発信は大切です。
		<ul style="list-style-type: none"> 教職員の時間外勤務時間が上限を下回っている。 職員が可能な範囲での改善がなされたと感じている 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 子どもに向き合うということを広く解釈してはどうか。直接的に子供と向き合うことだけでなく、子供のことを話し合うことも、教育内容や方法、さらには学校運営を話し合うことも、子供のより良い学びと成長のためにしていることだと思う。業務が細分化、分業化していくと何のためにしているのかが見えにくくなる。業務量は確かに増えて来ていて大変だと思うが、学校は子供たちのためにある、そこに繋がる仕事であるということを見つめて効率化な精選など、工夫をしてほしい。 仕事をしながら、十分に時間を確保する事は、簡単ではないと思う。 いろいろなことで忙しい場面も多いかと思う。メンタル面に注意しながら向き合っていければと思う。 外部からの評価は難しい。 働き方改革は必要